

DX リテラシー入門

[概要] 「働き手一人ひとりが『DX リテラシー』を身につけることで、DX を自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる」ことをねらいに、2022 年 3 月に経済産業省から『DX リテラシー標準 Ver1.0』が公開されました。しかし、これには多くの学習項目が挙げられているため、この内容をすべて詳細に学ぶには多くの時間が必要になります。

このコースでは『DX リテラシー標準 Ver1.0』をベースに、DX の概要、DX に必要なデータ・技術の概要、DX に必要な考え方を短時間でコンパクトに学ぶことができます。

[学習目標]

- ・ DX の概要を理解する
- ・ DX に必要なデータ・技術の概要を理解する
- ・ DX に必要な考え方を理解する

[受講対象者] ・ DX の概要を理解したい方

[前提条件] 特になし

[日数] 1 日間

[時間] 9 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0

[形式] 講義＋演習（講義中心、90 : 10）

[研修に必要なもの]

講師用 : (オンラインの場合) オンライン研修環境

(オフラインの場合) プロジェクター、ホワイトボード

受講者用 : (オンラインの場合) オンライン研修環境、

[タイムスケジュール]

日程	内容
AM	1. DX とは ・ DX の定義 ・ DX の必要性 - 社会の変化 - 顧客価値の変化 - 競争環境の変化 2. DX で活用されるデータ ・ 社会におけるデータ - データの分類 ・ データを読む・説明する・判断する - 統計解析の概要 - 統計解析の種類 - 記述統計：グラフ化、統計量、データの分布 - 推測統計：母集団と標本、正規分布の特徴と仮説検定 - ベイズ統計 ・ データを扱う - データ収集 - データ蓄積 - データ分析 - メタデータ管理 (確認クイズ) 3. DX で活用されるデジタル技術 ・ AI - 強い AI ・ 弱い AI - AI ブーム - 機械学習とは - 機械学習の分類：教師あり学習、教師なし学習、強化学習 - ディープラーニングとは： - ニューラルネットワーク、AI のニューラルネットワーク、 - ディープニューラルネットワーク、ディープラーニング、 - 目的別ディープニューラルネットワーク例、 - 機械学習・ディープラーニングの限界

日程	内容
PM	・クラウド - コンピュータ資源： - ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク - クラウドコンピューティングの特徴 - クラウドコンピューティングの分類 - 主なクラウドコンピューティングサービス (確認クイズ) 4. データ・技術の活用 ・データ・デジタル技術の活用事例 - 業務の効率化： - インダストリー4.0、RFID による倉庫自動化・無人レジ、Fintech 貸付 - 顧客との関係性強化：消費者動線分析、CRM - マーケティングの強化：インターネット・マーケティング - 既存製品を活用した新サービスの提供：コマツ KOMTRAX、アクア コインランドリー、トヨタ コネクテッドカー - 新事業開発：シェアリングエコノミー、プラットフォーム ・ツール活用 - RPA：定義、必要性、分類、活用例、メリット・デメリット - ローコード・ノーコード： - 定義、必要性、分類、活用例、メリット・デメリット ・セキュリティ - セキュリティ技術：暗号化、ワンタイムパスワード、ブロックチェーン、生体認証、ISMS - 個人が取るべきセキュリティ対策 ・モラル - SNS トラブル・ネット被害の回避 - データ活用における禁止事項 ・コンプライアンス - 個人情報、知的財産権、 - 諸外国におけるデータ規制の内容：GDPR、CCPA (確認クイズ) 5. DX に対応するためには ・デザイン思考・アジャイルな働き方 - デザイン思考 - デザイン思考のプロセス：理解、発想、試作 ・アジャイルな働き方 ・新たな価値を生み出す基礎としてのマインド・スタンス - 変化への適応 - コラボレーション - 柔軟な意思決定・事実に基づく判断 (確認クイズ)